

<p>尿素による飛灰中芳香族塩素化合物の再合成抑制効果</p>	
<p>Inhibition Effect of Urea on Formation of Chlorinated Aromatic Compounds in Fly Ash</p>	
<p>一般廃棄物の焼却処理から発生する排出ガスに含まれるダイオキシン類が注目されて以来、様々な対策技術の確立によって大幅な削減が達成されたが、飛灰中に含まれるダイオキシン類が依然として問題となっている。本研究では、焼却過程においてダイオキシン類の発生を抑制する化学的手法として尿素の添加に着目し、飛灰上におけるダイオキシン類の再合成の抑制機構について検討した。活性炭と塩化カリウム、塩化銅(II)二水和物を混合した模擬飛灰に尿素を添加して、管状型の電気炉内で酸素10%、窒素90%の雰囲気下で加熱した後、飛灰および排ガスの分析を行った。尿素の添加量、温度、時間がダイオキシン類の前駆体であるクロロベンゼンとPCBsの生成に及ぼす影響について調べた結果、300、120分の条件下では約80%の抑制率が得られた。各因子の影響を尿素の熱分解生成物との反応の観点から考察し、抑制機構についての知見を得た。</p>	
<p>服部 成真</p>	<p>Shigemasa Hattori</p>
<p>焼却処理、生成抑制、飛灰、尿素、PCBs、クロロベンゼン類</p>	
<p>Incineration, Inhibition of formation, Fly ash, Urea, PCBs, Chlorobenzenes</p>	